

平成 24 年度第 2 回中国地域発展推進会議 議事録

- 日 時：平成 24 年 11 月 21 日（水）15:35～17:10
- 場 所：岡山口イヤルホテル 2 階 「光楽の間」（岡山市北区）
- 出席者：会長 平井鳥取県知事、副会長 山下中国経済連合会会長
溝口島根県知事、伊原木岡山県知事、湯崎広島県知事、岡田山口県副知事
清水鳥取県商工会議所連合会会長、宮脇島根経済同友会代表幹事、
岡崎岡山県商工会議所連合会会長、林山口県商工会議所連合会会頭
（インバウンド事業推進委員会からの報告）松浦中国経済連合会常務理事
（中国地方知事会からの報告）中山鳥取県企画部長
（中国経済連合会からの報告）鎌倉中国経済連合会専務理事
（司会）中山鳥取県企画部長

【司会・中山部長】 ただいまから、平成 24 年度第 2 回中国地域発展推進会議を開会いたします。私は、この会議の進行役を務めさせていただきます、鳥取県企画部の中山でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

初めに、会長と委員の交代をお知らせいたします。

先ほど開催されました中国地方知事会議におきまして、鳥取県平井知事が中国地方知事会長に就任することとなりました。本会長も平井知事が就任することとなりますので、よろしくようお願い申し上げます。なお、任期につきましては、前任者の残任期間となります。

次に、新委員の方をご紹介させていただきます。

まず、岡山県知事、伊原木隆太様でございます。

【伊原木知事】 皆さん、こんにちは。岡山県知事の伊原木隆太でございます。

先月 28 日の選挙で初当選をいたしました。今月の 12 日から知事としての仕事を始めたばかりでございます。一生懸命務めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会・中山部長】 続きまして、山口県知事、山本繁太郎様でございますが、本日は代理として副知事の岡田実様がお出席されております。

【岡田副知事】 大変申し訳ございません。山本知事は所用のためきょうは出席できません。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会・中山部長】 なお、本日は、広島県商工会議所連合会様はご欠席となっております。

では、開会に当たりまして、本会議会長の平井鳥取県知事、副会長の山下中国経済連合

会会長、開催県でございます岡山県の伊原木知事様からごあいさつを賜りたいと存じます。
まず最初に、平井会長からよろしく願いいたします。

【平井会長】 先ほど紹介がございましたけれども、たった今行われました中国地方知事会議におきまして、知事会の会長の職をお預かりすることとなりました。規約によりまして、私が本日司会を務めさせていただき役割をさせていただきたくので、よろしくお願い申し上げます。

と申しましても残任期間でございますので、前の石井知事がしっかりお務めを果たされまして、私はリリース、今日出てきた。たぶん今日で終わりになりますから、その程度のお付き合いかもしれませんが、ぜひよろしくお願い申し上げます。

本日は、山下中国経済連合会会長様、さらに清水会長、また宮脇代表幹事様、岡崎会長様、知事会とお見えになりまして、経済界と知事会との恒例の交換の場ということになりました。新たに伊原木知事、山本知事というフレッシュな顔ぶれも出てきて、非常にさわやかな会と言えるかと思えます。ぜひとも皆さまのお力をいただきまして、これまで手がけてきました観光関係でありますとか、環境関係でありますとか、さらに私たちが経済界、そして知事会で、共同で目指していかなければならない、明日の元気な日本というものをどれだけつくっていただけるか、じっくりと話し合わせていただければありがたいと思えます。

先ほど終了いたしました中国地方知事会でいくつかのことが確認をされました。1つは、今の国政が12月16日投票ということで不分明なところはありますけれども、我々としてはやっぱり分権社会を目指していこう、そのために広域連合の設置に向けて着々と準備を進めていこう。そのあたりは、例えば産業とか観光も入るかもしれませんが、持ち寄り事務をもっと従来よりも考えたり、それから、中身の組織構成などもしっかり考えていこうというようなことを話し合ったところであります。

これからいよいよそういう具体的な検討が進みますが、先行している関西の例で言えば、経済界がむしろこういう広域連合を引っ張りながら設置を進めてきたという、そういう地域もございます。本来は、行政だ、民間だということで地域の発展というのは区分けされるべきものではありません。むしろ一体となって将来を見据えた議論をし、行動していく、そういうフィールドが求められているのではないかと思います。

まず皮切りに、ドクターヘリで共同の運航を目指そう、この基本協定を結ぼうということも先ほどの会議で合意がなされたところでございます。ぜひとも新しいメンバーでやっております知事会の取組を酌んでいただきまして、大いに活発な議論を行っていただきませう、お願いを申し上げます。

本日、これまでいただきましたさまざまなお労苦を感謝申し上げますとともに、今日の会議が実り多いものになりますよう、そして、ホストをしていただきました伊原木知事、岡崎会長はじめ、岡山県の皆さま、また、中経連の事務局の皆さまに感謝を申し上げます。

て、私からのあいさつにかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

【司会・中山部長】 ありがとうございました。

続きまして、山下副会長様、よろしく申し上げます。

【山下副会長】 中国経済連合会の山下でございます。きょうは、中国知事会が盛会に終わったと聞いております。新しく 2 人の知事様そして、会長に平井知事を迎えられ、ますますこの中国知事会が発展し、中国地方の活性化に寄与されることを願っております。中国経済連合会としましても、中国地方全体の発展に向けて、本当に皆さまのご活躍を期待しているところでございます。

経済界を代表しまして一言ごあいさつをさせていただきます。

皆さま、大変お疲れのところでございますが、県知事様と私ども経済界とが一堂に会して中国地方の話をするということはめったにございません。この機会は、私どもにとりましては大変有意義で、また、実り多いものであると考えております。お疲れでしょうが、今ひとつ、お若い方ばかりでございますので、ぜひ活発な議論をいただきたいと思っております。

この発展推進会議も 4 年を経過いたしました。これまでインバウンド観光や、先ほどもお話がありました地球温暖化の問題など、成果が出てきたと思っております。今回から新しいメンバーも迎えて、新しい視点からいろいろな議論をして、今の大変混迷した日本の中で中国地方がすばらしい発展をしていくことを目指していきたいと思っております。官民一体となって、そうした中国地方になることを祈念いたしまして、また忌憚のないご意見が出ることを願ひまして、簡単ではございますが、あいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

【司会・中山部長】 ありがとうございました。

続きまして、伊原木岡山県知事様、よろしく申し上げます。

【伊原木知事】 皆さん、あらためまして、こんにちは。開催県を代表いたしまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

本日、中国経済連合会の山下会長様はじめ、各県の経済界のトップの皆さまをお迎えして、また、各県知事をお迎えして、このように有意義な会議ができることを大変うれしく思っております。

私自身もつい半年前まで経済界に身を置いておりました。何か不思議な気がいたしますけれども、私自身、ずっと前から、経済界それから政治、もしくは民間と役所のどちらが頑張ってもしょうがない、一緒になって協力しながらやっていかなければいけないという強い思いを持っておりましたので、このような会議が定期的にかかれることを知りまして、

非常にうれしく思っております。ぜひともお互いに対して文句を言ったり、愚痴を言ったりするのではなく、協力し合って地域を日本をよくしていきたいと思っております。

開催県として、2点、PRさせていただきたいと思っております。美作の国が建国されて1300年を迎えます。美作というのは岡山県の北の地域のことでございますが、しっかりアピールしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。また、今度は南のほうでございますが、香川県で瀬戸内国際芸術祭が開催されます。そちらもしっかり頑張っていきます。

あと、こちらにご用意させていただきました新しいブドウ、紫苑といいます。非常においしいブドウですので、ぜひ食べていただきまして、やっぱり岡山のブドウはおいしいなということを実感してお帰りいただければと思います。

この会議が実り多いものになりますことをお願いいたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【司会・中山部長】 ありがとうございます。

本日の会議は、当会議規約第9条の規定により、会長が議長を務めることとされておりますので、これから先の議事の進行につきましては、平井会長にお願いしたいと思います。

では、よろしく願いいたします。

【平井会長】 それでは、恐縮ですが議事を務めさせていただきたいと思っております。お手元の次第に従いまして、本日、進行させていただきたいと思っておりますが、今日はこれまでやってきた観光等の事業、あるいは知事会や中経連の報告をさせていただきまして、その後、せっかくこういう機会はなかなかないということですので、中国地域の諸課題について自由なフリートークの意見交換をやってはと、こういうご提案がございました。今回は、新しい趣向であります、そうした時間も取らせていただきたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げたいと思っております。

それでは、まず、議事の1番目、インバウンド観光事業についてでございますが、これは設立から1年間にわたりまして本会でやってきた事業でございます。その後の進捗等につきまして、松浦常務理事さんからご説明をいただきたいと思っております。先ほど伊原木知事からもお話がございました、ぜひこの紫苑に手を伸ばしていただきまして、食べながら糖分を摂っていただく。そうすると頭の働きもよくなりますので、よろしくご協力をいただければと思います。

それでは、松浦さん、お願いします。

【松浦常務理事】 中国経済連合会の松浦でございます。

中国地域観光推進協議会の役員と、インバウンド事業推進委員会の委員を務めておりますので、私のほうからご報告させていただきます。

資料番号の 1 でございます。お手元の資料ないしスクリーンをご覧いただければと思います。

1 ページ目ですが、新しい方もいらっしゃいますので、簡単に今までの経緯、背景等を説明させていただきます。

この発展推進会議の最初のテーマの選定に当たりまして、広域観光をやろうじゃないかということでスタートいたしました。特に中国地方はインバウンドが弱いということ、また、インバウンドなら 5 県連携で取り組めるということもございまして、このテーマからスタートをしました。

議論の結果、インバウンド施策は新しい組織をつくることなく、既存の官民組織であります中国地域観光推進協議会の体制を強化し、予算も 5 県、官民で少し増やして再スタートしたわけでございます。事務局はそれまでの日観協の中国支部兼務の状態から独自の事務局をつくりまして、中経連、JR から人を派遣いたしました。また、広島県観光課にインバウンド委員会の事務局をお願いしまして、広島県と中経連から人を派遣して運営しております。

2 ページ目でございます。

これが観光推進協議会の概要で、12 年前から存在していた組織ですが、2 年前から強化いたしました。一番下の予算規模を見ていただきますと、約 35 百万円ということで、九州とか四国に比べて 1 けた違う予算でございます。他のブロックは、主たる国内観光も含めてやっておりますので、それだけの規模でございますけれども、それを差し引いても少し足りない、もっと力を入れていくためには予算規模の拡大も今後の課題だと思っております。

3 ページ目でございますが、本題に入る前にインバウンドの状況を数字で確認させていただきます。

世界の中の日本ということで、外国人訪問者数でございますが、861 万人でトップのフランスの 10 分の 1 でございます。政府の将来目標は 2,000 万から 3,000 万人で、同じ島国のイギリス並みということ意識していると聞いております。

4 ページ目でございます。

長期トレンドでございますが、東京オリンピック頃の 40 万人に比べて、この 50 年で 20 倍と着実に伸びてはおりますが、諸外国に比べてまだまだ足りないということでございます。

5 ページ目でございますが、最近のトレンドも右肩上がりになっておりますが、ご存じのとおりリーマンショック、震災、領土問題などの影響で上下動がございます。今年は 9 月までの数字でございますが、初めは順調に伸びていましたが、ここに来て領土問題等があり今週出ました 10 月の数字を見ても、少し厳しい数字にはなっております。

6 ページでございますが、これは国別の割合でございます。韓国、中国、台湾、香港、これで約 7 割ということで、今回のような国際情勢の影響を受けやすい構図にあることも 1 つの課題でございます。

7 ページでございます。

これが中国地方の状況でございます。中国地方の数字は宿泊統計でしか見ることはできませんが、外国人も含めた宿泊者数の日本の中でのシェアは5%台ということで、ほぼ人口、経済規模並みでございます。ただ、外国人宿泊者のシェアは2%ということで、この数字がインバウンドに力を入れていかなければならないという定量的な共通認識のベースになっております。

8 ページでございます。

ここ数年のトレンドでございます。1.5%から2%で推移しており、今年は1-6月の数字ではございますが、初めて2%台に乗っております。ただ、これはご存じのとおり、ほかのブロックとの相対的なものでございますので、これでもっていばれる数字ではございませんが、各県のご努力の成果もございまして、弱いなりに維持されているということでございます。

9 ページでございますが、これは中国地方の国別ウエイトでございまして、特徴は全国やほかのブロックに比べまして欧米の割合が高いことです。広島県の高さがそのまま中国地方の高さになっておるわけでございますが、この強みをどう活かすか。すなわち、広島に来られる欧米系の方にもう1泊していただくとか、あるいは山陰をはじめ他県を周遊してもらうとか、このあたりも重点的な施策の1つになっております。

10 ページ以降は、これまでの取り組みでございます。

プロモーション、情報発信、受入体制の3本柱と呼んでおりますが、まずプロモーションについては、最も大きな事業が東アジア、すなわち中国、台湾、韓国の旅行社を招請する事業でございます。

これは8回目でございますが、今年は岡山で開催させていただきました。岡山県の皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございます。9月上旬の微妙な時期でございましたが、1社のキャンセルもなく盛会裏に終了しております。商談会の当日ないし後日の商談成立など、いろいろな参加者から好評を得ております。

11 ページでございますが、商談会の終了後、招請者をツアーにご案内するというプログラムでございまして、3コースのなかから希望するコースに今回は参加していただきました。各コースとも中国、韓国、台湾の3カ国混在という状態で一緒のバスで行くというような、そんな取り組みを初めてやりました。事務局体制を充実しましたので、全行程添乗することも可能になりましたし、新たに宿泊地でも地元の商談会をするなど、好評を得ております。この事業による送客実績は過去1万人を超える年もございまして、一定の成果を得ております。

12 ページでございます。海外でのプロモーション活動でございますけれども、中国につきましては、最近の情勢からしばらく控えておりましたが、来年の初めに実施することにしております。中国の場合は説明会とか商談会方式よりも、熱心な旅行社との関係の維持・強化が先決で、それによって具体的な商品造成につなげることが重要でございます。今ま

でビジネスフォーラムの招請者へのフォローが不足しておりましたので、この辺に力を入れております。

台湾につきましては、関係とか認知度、認識度がある程度成熟している、ある程度高いということでございますので、従来どおり国際旅行博に合わせて説明会、商談会を実施したところでございます。このように、国別の特徴、状況を見ながらいろいろな取り組みを行っております。

13 ページでございます。

プロモーションツールということで、今まで 2 年前に作った紙媒体の素材集、ルート集を使っていろんな PR をしてきましたが、今年は画像のデータ、あるいはモデルコースを格納した USB メモリーを作成し、ビジネスフォーラム招請の旅行社に配布しております。これはそのままパンフレットに使っていただければということでございます。

(スクリーンのみ)

これは 2 年前に作った素材集で、一般消費者向けの内容になっております。

次が、旅行社向け、エージェント向けの中身となっております。

その次でございますが、USB メモリーで、中身はそのままパンフレットに使っていただく便利なものになっております。今までは海外の旅行社は自社で、適当にいろいろなパンフレットを作って、見栄えもしないし、本当にこの絵がいいかどうかというものもありましたので、そのままパンフレットに使ってもらっていいようなものにしております。

次に、写真集で、これは 500 枚ほどありますが、各地の本当に見栄えのする、美しいものを厳選しております。海外の旅行社にこの中からピックアップしているいろいろなパンフレットに使ってくださいということで渡したものでございます。

14 ページ、3 本柱の 2 本目の情報発信でございます。

昨年は震災の風評被害がございましたので、韓国、台湾、それぞれ効果が期待できそうなテレビ局、番組を厳選して、放映しております。

(スクリーンのみ)

これが昨年の例で、台湾でメイフォンさんという方の有名な番組で流した 1 シーンでございます。

15 ページでございます。

昨年は風評被害対策でしたが、今年からは知名度アップを目的としております。日本政府観光局のアンケートで、他ブロックに比べて中国地方の知名度はかなり低く、最下位か、あるいはブービーとか、そんな位置にあります。知名度が高くないと旅行社の商品造成につながらないといったことがございますので、中国、台湾で、効果の上がる番組を使って発信しようということで、先月からロケを行っております。

今回の事業の特徴は、テレビの番組名を冠として、パンフレットにどこの何という番組で取り上げられたものだということを入れるもので、旅行社とテレビのコラボというようなことをやっています。送客実績によってテレビ放映の効果検証もできるということで、

今までにあまりない取り組みだと思っております。

16 ページでございますが、これは中国の新聞社を招請したり、フリーペーパーに掲載したということでございます。

サイトも当然重要になってきています。事務局体制が強化される前は、簡体字もなかったということで、まず、簡体字を入れました。そんな段階から始め、英語、韓国語、繁体字のサイトをリニューアルし、少しずつバージョンアップしております。最近フェイスブックやツイッターなどの活用も模索中ございまして、これによってナビへの誘導を目指すということもございます。

18 ページ、3 本柱の最後でございますが、受入体制でございます。

外国人案内所の連携強化と環境整備事業ということで、整備不足のかかなりの数の案内所に公衆無線 LAN 環境やタブレット端末を整備し、訪れる外国人観光客や案内側からも大変好評を得ております。また、案内所間の共有化が不足していたものですから、情報交換会を行いお互いの観光資源を案内し合えるように、今、なりつつございます。

2 番目の 2 次アクセスの問題でございます。広島は先ほど説明いたしました、欧米系が強く、この方々をもう 1 泊、あるいは山陰などに行ってもらいたいということですが、行き方がわからないとか、現地に行っても移動方法に不安があるということがありますので、既にある広島から山陰への高速バスと現地の周遊券を組み合わせ、一種のバリアフリー的な商品、それを持っておけば行って帰れるというものを試行的に発売いたしました。売れ行きはよくなかったのも、モニターツアーも同時に実施して、いろいろな意見を聞いております。バス協会から無料チケットの協力や、宮島の特定の宿でバックパッカーに勧誘してもらいまして、欧米系 8 カ国、結果として数十名の方が参加、意見をいただきました。今後参考にして、どう進めていくかを考えていきたいと思っております。

19 ページでございます。

これも同様の発想でございますが、欧米系の個人客には、旅程を組まずに来る方もかなりいらっしゃると思います。案内があればちょっと足を伸ばすという人もおられます。また広島から各地へ行く方法がわからないものですから、Next10 スポットとして、各県、2 カ所ずつ紹介した大きなチラシのようなものをつくりまして、裏側にはバスの時刻表やルートなどを掲載しております。

(スクリーンのみ)

例が次にあります。これが各地の観光、代表的なスポット、その裏には時刻表、これは当然しょっちゅう変わるわけですが、大体の時間だけでもあれば、自分で予定を考えられます。広島を中心にいろいろなところに合計 100 カ所ぐらい、すなわち、宿泊施設や観光案内所、東京や大阪、あるいは成田などにも置いていく予定にしております。これはクーポンがついておりますので、その利用実績を把握することで、アクセスガイドの利用実績が把握できるということになり、効果検証にもつながっていくと考えております。

以上、まだまだできていないこととか、不足していること、今までにない取り組みを重

点的な施策として実施しております。先ほどご説明したとおり、可能な限り効果検証ができる工夫を入れつつ、小さなことに見える事業もございますけども、限られた予算で選択と集中で取り組んでいるところでございます。

20 ページにもっと広い、西日本の取り組みをご紹介します。

インバウンドはより広域な取り組みも重要でございますので、中部以西 6 つの経済連合会、それから 5 つの観光組織が連携しまして、当面、中国、チャイナからの誘客を目指しまして、東のゴールデンルートに対抗できるようなルートの開発に向け取り組み中がございます。西日本という広い範囲なら国による PR、あるいは国の支援を受けやすいということがございます。実際この 2 番目に書いております上海の 8 旅行社招請事業は、全額国費で実施することができました。

今年度下期は、昨年招請しました旅行社へのフォローということで、熱心で、高い関心を示しております上海 2 社への商品造成支援を通じて、西日本ルート開発を進めていくこととしております。これも旅行社招請事業から発展したものとして、この流れを活かしていきたいなと思っております。それが将来の中国地方全体への誘客につながる 1 つの手段になるのではないかと考えております。

最後に、21 ページから 23 ページは、中期的な取り組みとして、これは観光推進協議会のインバウンド委員会で議論いたしまして、総会で承認されたものでございます。体制整備をして 2 年経過しましたので、3 年間の中期取り組みを決めたものでございます。これに基づいて、現在、インバウンド委員会で来年度の施策を検討中でございます。東アジアからの誘客に重点、それから欧米系を活かすこと、これが大きな目玉でございます。昨今の国際情勢もございますので、中国など東アジアへの集中はどうかという問題もございます。中期的には国の分散、例えば比較的伸びてきているタイなど、東南アジアあたりにももっと取り組んでいく必要も感じております。具体的な取り組み方法はこれからでございます。

以上、かなり駆け足の説明になりましたが、インバウンド委員会では、各県、各経済団体、6 団体の皆さんが事務局に丸投げするということではなく、あるいは第三者的なコメントをするのではなく、当事者意識を持って参画いただいております。引き続き各県、官民が一体となって取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

【平井会長】 松浦さん、ありがとうございました。

それでは、早速意見交換に移りたいと思いますが、この中国地域観光推進委員会の会長をされておられます山下中経連会長から、まず最初にご意見をいただきたいと思っております。

【山下副会長】 平成 21 年 10 月の発展推進会議の強力な後押しのもとに、私どもの中国地域観光推進協議会は、インバウンド観光に取り組んでまいりました。3 年がたちましたが、これを総括としてみますと、この協議会の事業運営や枠組みにつきましては、各県の関係者や会員の皆さまの理解が進みつつあり、また、我々事務局としてもノウハウをかなり蓄

積ることができたということで、円滑な活動ができていると感じております。インバウンドに関する各県の皆さまの主体的な取り組みや、また協議会へのご協力、ご支援に対しあらためて敬意と感謝を表すものでございます。

ただ、成果ということになりますと、この活動の成果は見えるようになって定着するまで大変時間がかかることはもとより、景気や、先ほどありましたように外交などの国際情勢によっても左右されますので、数値目標を一応つくっておりますが、数値目標ではなかなか表せないものがございます。その中で現場からの意見を聞いておりますと、少しずつ成果が上がってきているということを私は確信いたしております。これからも大切な資金を使って取り組むわけですから、PDCA を確実に回しながら、既存事業の改善や、新しい取り組みに対しても積極的にチャレンジしてまいりたいと思います。あと、個々の課題につきまして、ここで議論いただくものではございませんけども、2つほどご紹介をさせていただきます。

1つは、この後ろに書いてありますように、私どもの協議会の下部にインバウンド事業推進委員会がございます。これは各県官民の観光関係の方々の方が委員になって活動してもらっておりますが、これを見ますと、広島県さんには委員長や事務局をお引き受けいただいております、少し過大な負担をおかけしているのではないかと。今後、私どもとしましては、成果がでてきて皆さん方に認知してもらうことが第一ではございますが、中長期的に見たときには、負担の平準化、平均化を図っていくということも大事ではないかと思っております。

2番目は、実はこの中に各県の観光連盟が入っております。各県の観光連盟さんは国内観光が主体でありますけども、そうした国内観光の観光連盟と協議会との密接な連携も相乗効果が出るのではないかと考えております。各県の観光連盟の方が一堂に会して会議をしますと、名刺交換をされておられます。ということは、あまり交流がないのではないかと感じるわけでございまして、そのあたりはこの協議会の場を使っていろいろ交流もし、情報交換をして新しいものをつくっていければと思っております。知事の皆さま方の強いリーダーシップに敬意と感謝を申し上げて、意見とさせていただきます。ありがとうございます。

【平井会長】 どうもありがとうございました。

それでは、各委員の皆さんからご質問とかご意見とか、自由に出していただければと思います。どなたからでも結構でございますが。

では、清水会長。

【清水会長】 我が県の平井知事さんが会長になりました。経済界も喜んで、これからも力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。座らせていただきます。

鳥取県のほうも、このたびの領土問題で外国人の旅客数が減少しておるといことは、いろいろな面で問題になってきております。鳥取県の米子、境港のほうでは、空路、海路を持っておるんですが、いずれも落ちて、特にアジアナ空港、それから DBS クルーズの、人と物の動きというのが減ってきております。やはり民間からすると、政治問題と民間の経済活動とは別の次元で語っていただいたほうが本当はいいんじゃないかなという感じがします。先ほどもあったように、やはりこういうときに対外的には日本の旅行社も積極的にいろいろとかかわり合ってもらって、両国に対してのアウトバウンドを積極的にやっていただき、わだかまりを民間レベルで解消して、もり立てていくことも大切ではないかという感じがしております。特に米子のアジアナ空港、これなんかもずっと下がっておって、損益分岐点を切っておるのではないかという情報も入ったり、釜山とウラジオストクの DBS クルーズなんかも、これも利用促進が今減ってきて困っております。やはり 5 県の県民さんのいろいろな面の活用をいただけるように、この知事会、経済界のほうでも皆さんのご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

以上、簡単ですけど、終わりたいと思います。ありがとうございました。

【平井会長】 ありがとうございました。

では、宮脇代表幹事。

【宮脇代表幹事】 島根の宮脇でございます。

観光に関するデータベースがとても豊富ですね。さっき山下会長が言われたように、これはぜひ国内の観光協会にも使わせたらと思います。特に JTB とか近ツリとかじゃなくて、各県に地元の旅行会社がありますから、そこに、さっき USB で渡しているとおっしゃいましたが、あれだけのすばらしい 500 ぐらいの地元でしか手に入らない景色とかが豊富にあります。これはウェブでもいいんですが、そこにアクセスをして勝手に使ってもらおうというのはすごくいいと思いますね。

あと、私はちょうど島根と鳥取の山陰文化観光圏をやらせていただいて、そこで感じたことなんですが、外国のインバウンドももちろん大切ですが、地元の具体的な商店が潤うのは国内の人が圧倒的に多いわけですから、観光を産業化にしなきゃいけないと。政策的にはとても大切です。県外、国外からの流入客数増加はもちろんですが、まず県民が自分の県内で開催されるさまざまなイベントとか行事に参加することが非常に大切です。

島根でちょうどこの間終わったんですが、古事記編纂 1300 年に際して「神話博しまね」祭を開催しまして、七十数万人という、ずいぶんと多くの人に会場してもらいましたが、おそらく多くの島根県民が来ているわけですね。これはあくまでもインバウンドを引っ張り込むだけのイベントではなく、島根県民のためのイベントでもあるわけです。特に子どもとか学生が参加するのは、私は非常に意義があると思います。

地域の活性化、活性化と言っていますが、活性化のベースは、そこに住む人たちがそこ

の場所、地域を愛して、誇りを持つということが基本になります。今回、古事記を通して古代の歴史を子どもたちが知って、結果的には友人とかをいっぱい呼ぶことになると思います。今回広島からもずいぶん来ていただいたので、来年の菓子博には是非我々も行こうと思います。中国地方のそれぞれのイベントに我々が足を運び、お互いに参加し知り合うことも地域の振興になると思います。以上です。

【平井会長】 ありがとうございます。
それでは、岡崎会長、お願いします。

【岡崎会長】 岡崎でございます。

インバウンド観光について、先ほどの感想を 1 つ、申し述べさせていただきたいと存じます。

先ほどもありましたように、今年の 9 月に岡山で中国地方国際観光ビジネスフォーラムを開催していただきました。大変ありがとうございました。私ども、見させていただいたんですが、ずいぶんたくさんの方々に来て盛況な感じがいたしました。

岡山でも、香港でありますとか、上海でありますとか、外国からのマスコミを招いてインバウンド観光といいましょうか、そういう誘致活動を行っているわけでありまして、来られた外国人観光客が自分でレンタカーを運転して白桃狩りに行かれるというようなことも耳にしております。そういった状況であります。

話は変わりますが、岡山と香川の間にあります備讃瀬戸、先ほど知事のほうからありましたが、ここで来年 3 月 20 日から、「瀬戸内国際芸術祭 2013」が開催されます。春、夏、秋と年に 3 回の期間に分けて開催をされるということでもあります。前回は第 1 回目でございます、3 年に一遍ということですが、2010 年、第 1 回目のときに、全部で 93 万人の方々に来ていただいたということでございまして、その会場の 1 つになった瀬戸内海の島で直島というのがございますが、これは世界的な観光雑誌に載りまして、これはだいぶ前の話ですが、2000 年頃でしょうか、直島が世界で訪れるべき 7 つの場所の 1 つということで紹介されたということで有名になりました。直島町の調べでは、2010 年に 63 万 7,000 人が訪れたということでございました。そのうち約 3 割が外国人の観光客ということでもあります。また、直島にありますベネッセハウスの宿泊者の約 15%が外国人であったということでもあります。ですから、来られた 64 万人の 30%前後というと、19 万人の外国人が来たんだなという感じがしております。

瀬戸内海は、私も国際芸術祭を見に行っただけですが、来られた方々にお話を聞いてみますと、瀬戸内海がこんなにきれいだとは知らなかったという、よそから来られた方がそういう感想でございました。とにかく瀬戸内海というのは第 1 級の観光資源ですが、これは日本人に限らず、外国の人にとっての 1 級の観光資源であると思っておりますし、シルクロードの命名者でありますドイツ人の地理学者のリヒトホーフエンという方が瀬戸内海

を紹介して、これ以上のものは世界のどこにもないだろうという具合に語って紹介したと。これは明治維新すぐのころのことです。ですから、戦前は日本観光というと瀬戸内海観光であったんですね。もちろん富士山もありますが、このあたりが中心でございますから、瀬戸内海観光というのが戦前で言えば日本観光の中心であったということでありました。我々はこれを忘れていてのではないかなと思っております。もう1回、瀬戸内海に着目して、もっとこれを使わなきゃいけないんじゃないかと思えます。

お聞きすると、広島商工会議所では瀬戸内海に注目されておられて、1997年に海生都市圏構想というのを策定されて、2012年から、関係自治体でありますとか、経済団体でありますとか、企業とかでこのような地域の活性化を行われておるということで、具体的には修学旅行の体験、修学旅行といいましょうか、そのようなことをやっているようでございまして、年間3,000人から4,000人の方々がこの地域、広島に来られているといったことを聞いております。こうした既存事業とインバウンド観光の連携も必要と考えます。

そういうことで、いろんな実績がそれぞれにあるわけでありまして、こういった事業と、インバウンド事業と連携して、それを取り込んでやるということも考えていただけないんじゃないかなと思っております。以上でございます。

【平井会長】 ありがとうございます。そのほか、いかがでございましょうか。
林会頭、お願いします。

【林会頭】 山口県の下関にあります林でございます。

下関と韓国の釜山の間に関釜フェリーというのが走っておりますが、関釜フェリーの会社では、まず、韓国の方は、日本が円高になると韓国からあまり入ってこられない。だから、円安になることが望ましいという、こういう話をしておりました。きょうは新幹線の中で聞きましたら、少し円安になっているところでございまして、これから円安になればお客は増えるだろう、こういうことが言えるだろうということが1つであります。

それから、中国の方はどうかといいますと、中国の方はやっぱり尖閣列島ですね。この辺の問題がありまして、なかなか感情的に日本のものはあまり買いたがらない、こういうような傾向があると言っておりました。

いずれにしても、どういうふうにして購買客を増やしたらいいのか、その辺はきょうこちらに来ていろいろお知恵を拝借して帰ろう、こう思ってきたわけですが、何かいい方法がありましたら教えていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

【平井会長】 ありがとうございます。経済界側から意見が続きました。
溝口知事、お願いします。

【溝口知事】 島根県のほうは、比較的海外からのお客さんが、これまでは非常に少な

ったわけでありますが、最近になりまして少しずつ動きが出てきているように感じます。先ほどの映像でも、事務局からの紹介がありましたが、本当にいろんな工夫をされて、中国でありますとか、韓国でありますとか、台湾でありますとか、あるいは欧米に対してもPRをやっていたいておりまして、このインバウンドの観光PR等を知事会と経済界でやっているということは大変有意義なことだと思っておる次第でございます。

島根県のほうの動きで言いますと、やはり島根県自身に外国と直結する空港がありません。それから、山陰ルートの方はDBSとかで来られますし、米子空港にはソウル便なんかがありまして、そちらのほうから島根のほうに来られる方も増えておるようでございます。引き続き鳥取県のほうと協力をしていきたいと思えますし、鳥取県と島根県、一緒になりまして、山陰のPRもやってきておりますが、今年の場合は古事記1300年、そして、鳥取県の国際まんが博といったようなことで、JRデスティネーションキャンペーンでありますとか、いろいろなことをやっておるところでございます。

これからも中国5県の有機的な連携を強化する道を、この場を活用しながらさらにやっていきたいと思っておりますので、よろしく願いますので、次第でございます。

島根の外国人客の動きをちょっと見ますと、近年、最近では台湾から来られる方がかなりありますね。これは広島空港、関西空港等を利用して、そこからツアーで中国地方プラス関西圏の周遊商品というのが結構活用されておるといふふうに思います。島根県のほうでは、石見銀山でありますとか、あるいは出雲大社、安来の美術館とか、そういうところを巡られる方も増えておるといふことでございまして、この点はPRを私どもとしてもさらにやっていきたいと思えます。韓国とは米子ーソウル便、DBSフェリーで山陰を周遊される方もおられます。

そういうことで、私どもが今やろうとしていますのは、外国と直航する空港からバスを利用する際に、バスの利用代金なんかについて若干の支援をするといったようなことも考えておりまして、そういう支援によって山陰方面まで足を伸ばしてもらおうというようなことも考えておるところであります。

欧米の方々は団体では少ないんですが、松江城でありますとか、出雲、古代の世界、特にフランス人など、欧州系の人たちは日本の古代文化、歴史などに関心を持つ人たちがそういう地を訪れるのが徐々に増えているような印象がございまして。そういう意味で、中国地方の中でも島根県は遅れておりましたけども、さらに外国へのPRにも努力していきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いますので、次第であります。

【平井会長】 ありがとうございます。

伊原木知事さん、お願いします。

【伊原木知事】 岡山県を代表して、さきほど岡崎会長がしっかりご発言いただきましたので、私は補足にとどめたいと思えます。インバウンドを考えますと、訪日客のゴールドデ

ンルートである東京から京都・大阪へのルートから、いかに西に引っ張るかがすごく大事になってまいります。そのときに岡山県だけでやろうとしてもなかなか力不足のところもありますので、広島県はじめ、近隣県と協力しながら、もう一歩足を伸ばしてよかったと言ってもらえる工夫をしっかりとやっていきたいと思っています。

たまたまですが、さきほど岡崎会長が紹介してくださいました瀬戸内国際芸術祭については、会場のほとんどの島が香川県で、岡山県の目の前でしている、しかも、中心になっているのが、岡山県の子会社であるベネッセホールディングスさんの関連財団ですが、3年前は、すぐ目の前の玉野市ですとか、岡山県がなかなかきちんとうまく協力できなかったことがございます。これは誰が悪いとか、そういうことではなくて、もっとお互い胸襟を開いて、一緒に仲良くやっていくほうが、実際に訪れる人にとってもいいでしょうし、いろいろな意味であまり意地を張らずにやっていきたいと思っています。瀬戸内海はつながっているわけですから、ぜひみんなで一緒に盛り上げていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

【平井会長】 ありがとうございます。

そのほか、湯崎知事。

【湯崎知事】 実は今、たくさんの皆さまからいろんなご意見をいただいて、それに関連してになるんですが、まず、先ほど山下副会長が、あるいは山下中経連会長から、インバウンド推進委員会の委員長、そして事務局のことについて大変ご配慮いただいたご発言をいただきまして、ありがとうございます。私としては、そういう事務局の負担というのは、広島県なり、こちらとして負うのは全く問題ないんですが、そういうご指摘が出るということは十分に責任を果たしていないのかなという、そういうご指摘かなと感じたようなところもあったので、もう一度帰ってよく話をしていきたいと思います。

それから、先ほど宮脇代表幹事が、地域内の観光というのも大事じゃないかと。これは、テーマはインバウンドなんですが、それはおっしゃるとおりだと思っています。といいますのも、今年、1月、12月に、年度ではなくて歴年でやっておるんですが、広島県では530万人の観光増というのを目標として観光施策を打っております。昨年度が5,300万人でありますから、そこに530万人をプラスするという目標を立ててやったわけであり

ます。それをやる過程で、やはりいろんな、要素分解をしていきますので、考えますと、地域外からのお客さまというのももちろん非常に重要というか、経済的には非常に外貨を稼ぐという意味で重要なんですけども、域内、本当に近隣の観光客の出というのも、にぎわいであったりとか、あるいは即効性だとか、そもそも近くの人が来たいとも思わないのに外の人に来ないとか、いろんな側面で非常に大事じゃないかなと。

そういう意味で、地域内の、中国5県は車ででも行き来しやすいですし、お互いの観光地、

これをもっともっと知って、もっともっとお互いに行くということも非常に大事じゃないかなと感じておりました、結局、我々も 530 万を目指すところでなかなかこれは、どうもそれは行きそうにないんですけども、最後、後半になると何をやるかという、近隣を呼べという、こういうことになりまして、それでにわかに、例えば先週は尾道で新しい全国仮装大会を勝手に尾道で始めたんですけども、そうしますと、公称 7 万人の人出があったりとか、ほとんど近隣がやってくるんですが、そういうこともありますので、手をつけやすいところも含めてしっかりと考えてもいいんじゃないかなと思います。

それから、岡崎会長からも瀬戸内海の話がございまして、広島県が提唱させていただいて、瀬戸内海沿岸、今、7 県で「瀬戸内 海の道構想」というのを進めるための協議会をつくらせていただいております。これは、私が就任して「瀬戸内 海の道構想」というのをまず広島県でつくって、それを関係の県が共同して推進をしていきたいと思いますという考えに基づいて、今年から部長レベルの協議会をつくらせていただきました。その中でいろいろとまた活動していこうとしておるんですが、こういった広域での行政、また民間を含めた動きというのをやっていくことが重要かなと思っております。おっしゃるとおり、瀬戸内海というのは非常に大きな魅力であると思いますので、ここを鍵とした展開というのはインバウンドにとっても非常に重要かなと感じております。

ただ、中国地域発展推進会議で申し上げるのは気が引ける部分は、瀬戸内という、どうしてもイメージが瀬戸内海というか、あと、四国も入ってくるんですね。ということも含めて若干我々も熟慮するところがありまして、それであまり大々的には出ていないんですけども、ただ、今後のインバウンドを引っ張ってこようと思ったら、漫然と、ここにこういうものがあります、ここにこういうものがありますということだけでは、おそらく訴求力が弱いと思うんですね。やはり一定のテーマ性であるとか、ストーリーとか、そういうものを持った展開というのは必要になるだろうと思っておりまして、瀬戸内というのが中国地方、四国も含めてなんです、インバウンドを引っ張っていく 1 つの大きな切り口になるだろうと思っています。

その他を考えると、これは今広島県でやろうとしていることですが、台湾が、今お客さんが広島で増えているんですが、台湾は非常にサイクリングがはやっているんですが、サイクリングを切り口にしてやっています。鳥取とも、そういう切り口で一緒にやりましょうというお話をさせていただいているところなんです、日本でサイクリングといたらここだとか、あるいは、これは本県で取り組んでいます、ゴルフですね。韓国からのお客さんとゴルフ、これは非常に魅力的に感じていただいているみたいなので、インとアウトの空港を変えながら、あるいは温泉と組み合わせながら、ゴルフを徹底的に韓国向けに追求するとか、そういった、少しエッジの立った、あるいは、ストーリーを持った展開を具体的に進めていくべきじゃないかと考えております。

長々となりましたけれども、そういうことで私の意見とさせていただきたいと思います。

【平井会長】 ありがとうございます。

岡田さん、お願いします。

【岡田副知事】 私は短く、ちょっと山口県の状況をお話しさせていただこうと思いますが、先ほど林会頭さんからもございましたように、山口県は、一つは海の国際交流基盤といえるでしょうか、韓国あるいは中国とのフェリーの航路を持っておりますので、そこを一つ、生かした形で国際観光といえるでしょうか、進めていくべきかなど。

それから、空のほうは、定期便はないわけなんです、山口宇部空港、チャーター便をいろいろ取り組んでいます。また、きょうもチラシは配っていただいている岩国錦帯橋空港、12月には開港いたしますので、そういったものを使った形での国際観光というものに取り組んでいくということが一つあるかと思っております。

また、基本的には、私どものほうは中国・韓国、あるいは台湾、先ほど来からいろいろお話が出ておりますけれども、そういったところを中心とした、アジアを中心としたところがターゲットだと思っておりますが、いずれにしても、単県で、単体で取り組んでいくというふうな視点では、今ずっとお話があるように難しい。先ほどご紹介いただいた中経連さんにはいろんな取り組み、大変ありがとうございます。参考になりました。そういった中国各県、また、私どもは中国の一番西の端にありますので、九州との連携を含めた形で、広域的な対応ということが非常に重要だなど、いずれにいたしましてもそう思っています。

そういう面では、知事も就任して、広島県知事さんとかとお話をさせていただいているのは、特に観光の面で隣り合ったところ、あるいは、さらに広域的な連携を深める形で取り組んでいこうと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【平井会長】 ありがとうございます。

皆さん、観光の話はしゃべりだすと尽きないのでございますが、幸い、多様な魅力が中国地方にはあります。インバウンドの国際観光、さらには域内観光も大切だというお話がありました。あるいは、近隣でそうしたところを目指す観光などもあるわけでございますが、ぜひとも観光振興、今後、経済界と一体となってやってまいりたいと思います。

事務局のこと等、若干問題提起もありました。これから広域連合のあり方の議論を同時にしますので、1つの自治体に極端に迷惑をかけるよりは、むしろみんなで共同してやる体制を整えることもあろうかと思っております。これからしっかりとその辺の整理をしていきたいと思っております。観光については、なかなか客足がどうだという議論が実はございまして、最近の国内でのブームだと、新幹線に乗って九州まで行ってしまうと。それから、東京にスカイツリーができたものですから、それを見に行ってしまうという観光が増えていまして、結構東京ははやっているというのがあります。スカイツリーに上りたいならば、三瓶山や大山に登ってもらったほうがよっぽど高いですが、なかなかそういうことはありませんで、

あっちまで行ってしまうということがございます。

ですから、一丸となって観光に取り組まなくてはいけない要素は非常に強いということを確認できたと思いますので、せっかく山下会長をトップにしてこういう地域の観光組織もできておりますので、タイアップして問題点を洗いだしながら進んでまいりたいと思いますので、また今後ともご論議と実行をいただきたいと思います。

溝口知事。

【溝口知事】 先ほどの発言の中で事務局の話に触れませんでしたので。今のプレゼンテーションにしても、本当にいろんなことをおやりになっておりますし、島根県などは国際観光が少し遅れているところですから、事務局員なんかにつきまして、必要がありましたら、我々のほうも勉強を兼ねて出向するというようなことも検討しますので、またご相談をさせていただければと思います。

【山下副会長】 大変ありがとうございます。

先ほどの弁明をするわけではありませんが、インバウンド委員会の事務局の現状に問題意識をもっているのではなく、スタッフ等について、各県から交代で派遣する方が、この連携組織の趣旨に添うのではないかとということでございます。

それから、JTBさん、日本旅行さん、近畿ツーリストさんの会費を今回3倍に増やしていただきました。今の観光に対しての思い入れというのを感じるところでございまして、我々としては、焦ってもいけませんけれども、成果を出して、皆さん方に認めていただくことが、一番大事かと思っております。ありがとうございます。

【平井会長】 それでは、ぜひ力を入れて、一丸となって取り組んでいってまいりたいと思います。

若干時間が経過してきましたので、(2)と(3)の議題を一括して行いたいと思います。まず、中国地方知事会の報告を中山の方から申し上げたいと思います。

【中山部長】 時間の関係がございまして、簡単にご説明させていただきたいと思いません。

今年6月の知事会におきまして、設立に向けた準備を進めることで合意し特定広域連合の設立について検討を進めてきたところでございます。その後、この広域連合につきましては、県議会とか市町村、そういったところで説明して、おおむね異論はなかったということでございます。8月には、前石井岡山県知事が国に対して宣言と申しますか、共同声明をされております。11月13日にはアクション・プランということで平井知事がご出席されて、中国地方での現状について、あるいは財源確保について意見を述べられております。15日には閣議決定、その特例法案が閣議決定されましたが、結局、法案は提出されず、16

日解散ということになっております。

この中で、先ほど知事会の中でいろんな意見が出てきたわけですが、基本的には、今後については非常に不透明だということが1つございます。ただし、今後の動きを注意しながら、やはり分権の流れを止めてはいけないということで準備を積極的に進めていこうということが確認されたところでございます。

また、持ち寄り事務につきましては、これにつきましても議論を進めていくべきということで、広域防災だとか、広域医療に加えまして、先ほどのお話にありましたように、観光ですとか、産業、こういったところについても積極的に議論をして進めていこうということでございます。

岡山県知事から、ワンセット主義が財政悪化になるということがございましたが、県境を越えたサービスの提供ということもこの中で議論できるのではないかというふうなお話もございました。

組織関係で、できるだけ運営コストについても考えながら進めていかなければならない。あるいは、そのときに関西広域連合というのは1つの参考になるというふうなお話がありました。これにつきまして、事務サイドで今後進めていって、前に進めていって、少しスピード感を持って取り組むようなことをしなければならぬということが確認されたところでございます。

それと1つ、資料の方で、検討状況ということで資料2をつけておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

それと、1つは共同アピールということで、全部で7本、アピールが採択されたのですが、その中で、改めて地方分権改革の断行を求めるということで、これは広島県さんから提案されたのですが、やはり骨太の議論を進めていかなければならないということで、地方分権の改革を断行して進めていくように求めるとことがアピール文として採用されたところでございます。以上でございます。

【平井会長】 引き続きまして、中経連の報告に行きたいと思えます。

鎌倉専務理事からお願いいたします。

【鎌倉専務理事】 中国経済連合会の鎌倉と申します。それでは、座って説明をさせていただきます。

私からは、西日本経済協議会総会の決議の内容と、中国経済連合会の要望事項のポイントを簡単に説明させていただきたいと思えます。

まずは、資料4をご覧いただきたいと思えます。

「地域の個性と資源を活かした強靱な国づくり—西日本からの提言—」というのが本年10月に名古屋で開催しました西日本経済協議会総会の決議でございます。

次ページ、表紙の裏をご覧いただきたいと思えます。

西日本経済協議会と申しますのは、そこに書いてありますように、中部以西、西日本の6つの経済連合会で構成している協議会でございます。毎年1回、総会を開催いたしまして、政策の課題につきまして議論し、決議をまとめまして、政府等へ要望を行っております。今年10月26日に各経済連合会の代表者が上京して要望活動を行ったということでございます。また、後ほどご説明しますが、中国経済連合会も毎年秋に政策課題につきまして要望事項を取りまとめまして、政府等に要望活動を行っております。

こうした活動につきましては、これまで中国地方の行政当局にはご説明しておりませんが、官民の代表者の皆さまが集まられたせっかくの機会でございますので、中経連の活動や課題の認識ということをお知らせするとともに、この後の意見交換の参考にもしていただきたいと考えまして、このたび紹介させていただくことといたしました。

それでは、西日本経済協議会の決議、要望事項のポイントについて、簡単に説明させていただきます。

2ページをお開きいただきたいと思います。

要望の大きな柱は、3つでございます。1番目がグローバル競争に打ち勝つ環境整備の推進、2番目が持続的成長に向けた制度改革の推進、3番目が災害に強い国土づくりの推進ということでございます。

まず、1番目のグローバル競争に打ち勝つ環境整備の推進につきましては、長期的・総合的なエネルギー政策の推進ということで、安全性を前提とした原子力発電所の速やかな再稼働と電力安定供給の確保、そして、9月に設定されました現実性・実現性に乏しい革新的エネルギー・環境戦略の抜本的見直しを要望いたしております。

産業への支援につきましては、円高の是正をはじめといたしまして、法人実効税率のさらなる引き下げ、総合特区制度や規制緩和の推進、さらにはTPP等、経済連携等の推進などのほか、広域的な交通・物流基盤の整備推進を要望いたしております。

具体的には、後ほど中経連の要望事項でも出てまいります。中国地方では山陰道、下関北九州道路、いわゆる第3の関門海峡道路でございます。それから、港湾では国際バルク戦略港湾、日本海側拠点港の整備促進等を強く要望いたしております。

また、観光振興への支援では、先ほどもございましたが、西日本広域観光ルートの開発を含めまして、インバウンドの観光の振興に対する支援拡充を強く要望いたしております。

2番目の持続的成長に向けた制度改革の推進につきましては、次ページをご覧いただきたいと思います。まず、税・財政・社会保障制度など、制度改革の継続推進ということで、消費税の引き上げの確実な実施や、社会保障費の抑制に向けた抜本改革といったことを要望いたしております。

また、地方分権改革・道州制の推進ということで、国の出先機関の地方移管など、地方分権改革の推進、そして、地方の活性化に資する道州制の推進ということを要望いたしております。

3番目の災害に強い国土づくりの推進につきましては、国民生活、産業活動に必要な防

災・減災対策の推進ということで、津波対策等の強化のほか、鉄道・道路等の整備促進によりますリダンダンシーの確保と防災・減災力の強化等を要望いたしております。

また、企業の防災・減災対策を促進するための新たな税制の創設ということについても提言いたしております。

こういった内容が西日本経済協議会の要望事項のポイントでございます。

次に、中国経済連合会の要望のポイント、これもごく簡単にご説明します。資料 5 をご覧いただきたいと思っております。

中国地域の自立的・持続的な発展に向けてというのが当連合会の要望書でございます、今月 29 日に政府等へ提出する予定でございます。正式な要望書は、また委員の皆さまにも後日お届けさせていただきたいと思っております。

要望の内容は、西日本経済協議会とほぼ同様でございますが、そのポイントをごく簡単に紹介させていただきます。

要望は大きく 5 点でございます、1 点目は電力の安定供給確保と革新的エネルギー・環境戦略の抜本的見直しということでございまして、先ほど申しました原子力の再稼働やエネルギー戦略の抜本的見直しのほか、地球温暖化対策の中長期目標や再生可能エネルギーの高い買取価格の見直しといったことも併せて要望いたしております。

2 点目は、アジアの成長の取り込みと空洞化回避に向けた産業競争力の強化ということで、これは先ほどの西日本経協と同じでございますので、省略いたします。

3 点目は、持続的発展に向けた社会基盤整備の推進ということで、先ほど申しました山陰道や、港湾等の交通・物流基盤の整備のほか、電子行政をはじめ、医療・介護等、さまざまな分野での ICT の利活用の促進を要望いたしております。

4 点目の社会保障制度改革と財政健全化の着実な推進。これは先ほどと同じでございますので、省略いたします。

5 点目は、地域主権改革・道州制の推進ということでございます。当連合会としては、改革に当たっては、やはり何といたっても国と地方の役割分担、新しい国のかたち、統治機構を含めた全体像をしっかり議論して明確化して進めることが大変重要であると考えておまして、道州制の検討推進を要望しております。

また、国の出先機関改革につきましても、その大きなステップとして着実に進めていただくよう要望しております。

説明は、以上でございます。

【平井会長】 ありがとうございます。

ただいま中山、そして鎌倉専務理事からご説明がございました。

これら報告に関することでも結構でございますし、時間の関係上、中国地域の諸課題についてご意見、何でも受け付けさせていただきたいと思っております。実は時間がそろそろ迫ってきておりますので、できればポイントを絞ってお話をさせていただけると大変ありがたい

と思います。

まず、そうはいつでも中経連の山下会長のほうから口火を切っていただければありがたいと思います。

【山下副会長】 ありがとうございます。

まず、知事会で改めて地方分権改革の断行を求めるというアピールを出されるということに対して、本当に賛同いたします。我々経済界といたしましても、やはり今の東京一極集中、地方の疲弊というのは見過ごすことはできません。我々としては、地域のことは地域で、地域の主権、財源を使って治めていくということが基本だろうと思っておりますので、引き続き、そこらあたり、最終的には私どもは道州制というのを主張いたしておりますけども、いずれにしましても地方分権改革の断行というのは必須だろうと思っております。

それから、私ども、西日本経済協議会で政府、民主党、自民党に説明、提言しお願いをしてまいりました。皆さん方熱心に聞いていただきましたが、要は地方の実情をきちっと見てもらうということと、それに必要な対策についてきちんと我々が訴えるということが主題でございました。政府は官房長官以下、民主党は幹事長代理、政策担当者、それから自民党に至りましては、安倍総裁以下、総務会長、政調会長、幹事長が不在でしたので代行の菅さんが出られましたけども、非常に熱心に聞いていただきました。特に誰かとは申し上げませんが、各政党とも山陰の基盤整備についてきちっとやりますというような力強いお言葉をいただいております、我々は今後ともその実情と必要性を訴えていきたいというふうに思っております。以上でございます。

【平井会長】 ありがとうございます。中経連を代表して、本当に力強くアピールをしていただいたことについて感謝を申し上げたいと思います。

そのほか、いかがですか。何でも、意見交換ということにいたしますので。

どうぞ、岡崎会長、お願いします。

【岡崎会長】 先ほど来中国地方がイメージが薄いというか、もっとイメージアップを図らなきゃいけないんじゃないかという話がありましたが、これに役立つといいましょうか、国内観光も大事ですから、その辺で非常に有効なのは、NHKの大河ドラマが非常にいいのではないかと。昨年も坂本龍馬でずいぶん高知のほうへ行っていますし、今年は平清盛で宮島はずいぶん観光客が増えているんじゃないかと思えます。そこで、岡山もやろうということで今やっています、山田方谷という方を大河ドラマで取り上げてもらおうということで今運動をしています。来年が新島襄の奥さまの八重さんですね。「八重の桜」。再来年が黒田官兵衛、「軍師官兵衛」、その後が決まっていないものですから、そこで山田方谷を取り上げていただくということを今運動しているところです。

山田方谷という方は、あまりご存じないかもしれませんが、岡山県の高梁市、備中松山藩の方で、幕末のころ、大体 10 万両ぐらいの借金があったのを、7 年間で全部それを完済して、さらに 10 万両の余剰金を積んだという大変な方でございます。その方がちょうど今の日本の状況にも当てはまるんじゃないかということで、そういった将来に対する夢を持てるような大河ドラマを放映することで、顕彰していただくということと併せてこの地域の観光に貢献をしていただくということで 100 万人署名というのを始めております。これは全国での 100 万人署名でございます。全国に方谷さんを広める会というのがいくつかございまして、そういった方を中心にこの運動を展開しているということでございまして、そういったことで、岡山へたくさんのお客が来れば、また中国地方各地へそういった方々が観光に訪れていただけるということも考えられますので、皆さん方にもひとつ、ご支援をお願いしたいということでございます。以上でございます。

【平井会長】 ありがとうございます。

じゃ、宮脇さん。

【宮脇代表幹事】 現在、経済界でも少子高齢化現象が起きています。中小企業の倒産、撤退、廃業で企業が減る反面、新しく生まれる起業家が出てこないわけです。特に来年の 3 月、いわゆるモラトリアム終了で危険な要素ができていくわけです。結果的にも雇用がどんどん減っていく。島根の振興財団や産業技術センターで多くの会に出させていただいています。県が苦しい財政の中からお金を出して産業技術創出や産業振興を進めています。その中で選択と集中を一生懸命しようとして私たちはやっているんですが、結果としてなかなか早期に結果が出ません。日本人というのはものづくりがうまく、研究熱心です。しかし、どんなに良いモノを作っても、市場が受け入れて初めて事業化できるわけです。そして、事業化ができた結果として、今まで投入したお金を納税という形で返還できるわけです。一緒にやって来た私の個人的な考えですけど、1 つは、研究時の補助金の申請を出すときに単年度予算になっているわけです。であれば、結果は急ぎませんが、この一年で必ずここまでやるという、そういう納期感覚が非常に甘いのではないかと。もう 1 つは、時代の流れの中で、技術・製品化に変化を持たせなければならない事です。この 2 つですね。その辺の感覚がうまくいかないのが、ひょっとしたら、経済界としてはこの部分でもっと深く産官連携というものが出来るかもしれません。

更に、文科省で今、各大学とソーシャルラーニングというテーマで、島根大と県立大学と鳥取環境大学と各県の短大とかで連携を組んでいます。お金がずいぶん落ちていますが、1 つの大学が定員不足で授業や講座が持てない場合は、先生の授業を CAI と言いますが、インターネットを介して在宅学習をして単位を取得するというのを中国地域で取り組んだらどうでしょうか。インターンシップも含めて前広島県知事さんが、中国地方で優秀な学生たちを中国地区の企業が雇用してやればどうかという話もありました。これは 1 つの

県ではできないわけですね。四国地域では確か太平洋側の学校が全部一括をしてデータベースを1つに集中して知財を守るんだということで、8校ぐらい参加しているんですね。いろんなことでおそらく連携をしてやっていると思いますので、もっとそういうふうな情報とかも含めて、これはぜひ行政と共同で働きかけていただけると早いわけですから、どんどんそういう形で、具体的な産学連携をやっていかなきゃいけないような気がしております。以上です。

【平井会長】 清水会長。

【清水会長】 簡単に。1つは、先ほどのPRですけど、今年岡山であった国際観光ビジネスフォーラムが、第8回目が鳥取県で、来年の秋にあるということで、それでまたにぎやかにしていきたいと思います。そこで、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

もう1つは、今、地方では、大企業がこれまで各都市の雇用などを受けておったやつが、統合したり、閉鎖したりして、どんどん減ってきております。やっぱりそれをカバーするのは、鍵となっているのは中小企業の集まりです。新しいものづくりのネットワークをつくったらどうかというような動きで、やはり連携と交流というのが1つのテーマとして結構アクションを起こしています。

1つの事例が、島根県の中海を中心にした、鳥取県の境港を含めての1つの商圈が、先日連携企業として一段と圏域を広げて、それを徹底して販路につなげたという、マーケティングにも役立つようにしてやっていこうと。鳥取のほうでも県内の中小企業を集めて1つの新しいものづくり、ニッチな部分の、便利で、新しいものを掘り起こしていこうというような動きをしております。今も宮脇さんが言われたように、1つは、産官学の連携というもの具体的には中小企業の中で、もっと芽を出すような動きをやっていこうというような動きをしておりますので、またいろんな情報をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

【平井会長】 ありがとうございました。

林会頭、いかがですか。

【林会頭】 ありません。

【平井会長】 わかりました。ということで、経済界側から一言ずつコメントがありましたが、今出たいろんな論点もございますので、知事側も一言ずつでもコメントをいただけますでしょうか。

【溝口知事】 インフラ整備、特に道路について1点申し上げます。

松江－尾道間の高速道でありますけれども、三次までが今年度中に完成をする。そして、26年度には松江－尾道全区間が開通する予定になっております。こうしますと、山陰・山陽の交流に加えまして、四国との交流も大きく広がっていくわけでありまして。中国経済連合会におかれましては、尾道－松江間の活用策について提言をされておられます。官民を挙げて開通ムードを高めるようにしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

そして、山陰道につきまして、山下さんからお話がありましたが、早く山陰道を完成させたいと思っておりますので、経済界のご支援をよろしくお願い申し上げます。

【平井会長】 ありがとうございます。

どうぞ。

【伊原木知事】 こういう会があること自体、非常に有意義だと思っております。せっかくの会をいかにもっと有効に活用するかについて、これからも知恵を絞っていきたいと思っております。ありがとうございます。

【平井会長】 ありがとうございます。

湯崎さん。

【湯崎知事】 ありがとうございます。

西日本経済協議会、あるいは中経連からのご要望というのも我々の考えと一致しているところが多々ありますので、特に国に対応していくという際の、この辺の連携といいますか、地域として、いつも行政で行ったりという形が多いと思っておりますが、経済界と行政が一体となって国に訴えていくというのも有効かなというのを感じました。

【平井会長】 ありがとうございます。

【岡田副知事】 じゃ、短く。私どもの知事、山本繁太郎知事が8月に就任いたしまして、就任直後から、自分が1丁目1番地で一番力を入れて取り組むのは、産業力、観光力の増強であると。これを繰り返し言っています。そのために産業戦略本部という組織も立ち上げてしっかり取り組んでいこうと。そのベースになりますのは、やはり産業界、企業のニーズに公的サービスとしてどうとらまえて取り組んでいくかということだと繰り返し私どもも聞いております。

きょう、この西日本経済協議会、あるいは中経連さんからの要望内容は、私どもも同じような関係に立っておりますので、ぜひ連携を取らせていただきながら取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【平井会長】 ありがとうございます。

以上で、一通りご意見が出ましたけれども、時間の都合もありますので、引き続きの懇談会の中でも議論を継続させていただきたいと思います。

今いろいろご意見が出ました。例えば産学官連携だとか、ものづくりで県境を越えて移動できるのではないかと、また、柔軟な対応をやったらいいのではないかとというご意見が相次ぎました。これはまた知事側でも受け止めさせていただいて、これから協議をさせていただきますので、今日出たご意見も検討の中に入れさせていただきたいと思います。

また、溝口知事からもありましたけれども、こういうふうに関係で一緒に提案していくというのが大事じゃないかと。その辺は伊原木知事も、こういう機会をもっと増やすべきではないかというようなお話がございました。この辺も経済界の皆さんとよく相談させていただきまして、今後の運動展開を考えていく必要があると思います。特に今は政治の変わり目に来ていると思います。おそらく 12 月 16 日の前と後では様子が変わってくると思います。そういうようなことを考えますと、タイムリーに我々、行政サイドと経済界サイドが一体となって行動を起こしたり、新しい分権の姿を描いていく中で、今までできなかったことを織り込んでいったりというタイミングに来ているのではないかと思います。ぜひこうした、今出ましたご意見を今後に生かしてまいりたいと思いますので、よろしくご指導いただきたいと思います。

それでは、時間が参りましたので、ここで最後の課題、役員選任に移らせていただきたいと思います。

規約によりますと、会長の任期は 2 年ということでございます。慣例ですと、会長と副会長を交代しながらこの会を進めていくということでございます。そういう従来の慣例に基づきまして、今後は山下中経連会長に会長を引き受けていただくのがよろしいのではないかと思います。皆さま、いかがでございましょうか。(拍手)

ありがとうございます。私はわずか 1 時間半で終わりということで出てきましたので、本当にお礼を申し上げたいと思います。つたない司会ではございましたけれども、十分煮詰まらなかった点は、この後の会で引き続きご議論をいただきたいと思います。

それでは、新会長になられました山下会長からごあいさつをいただきたいと思います。

【山下副会長】 それでは、これから 2 年間、会長を務めさせていただきます。石井前知事が会長をされ、きょうは平井知事が会長をされて、本当にいろいろな取りまとめをありがとうございました。

お忙しい知事さんを拘束して、1 時間半、2 時間、きょうもその中でいろんな意見をまとめていくという会長は、これは大変な仕事だと思っております。皆さま方のご協力をお願いする以外にございません。ひとつよろしくお願いいたします。

【平井会長】 それでは、これにて閉会といたします。本当にご協力、ありがとうございます。

ました。

事務局よりご案内がございますので、お願いいたします。

【司会・中山部長】 どうもありがとうございました。

これをもちまして、平成24年度第2回中国地域発展推進会議を終了させていただきます。